

特集 続けよう、おにぎり一個分のごみ減量。

まだ使い道があるかも？

おにぎり一個分のごみを減量するため

捨てる前に考えよう

「おにぎり一個分のごみ減量」とは

令和2年度に高座清掃施設組合へ搬入した家庭系の燃やすごみは、前計画の想定量16,150トンに対して約4,858トン超過していました。この超過分を、令和2年10月1日の人口で割り返すと、1人1日当たり約101グラムとなることから、分かりやすい指標として「おにぎり1個分のごみ減量」を呼び掛けてきました。

担当 ゼロカーボン推進課 ☎046(252)7985 FAX 046(255)3550

燃やすごみ
想定量超過分

÷人口 =

1人1日
当たり
約101g



おにぎり1個分相当

燃やすごみの削減状況

令和4年度の家庭系の可燃ごみの排出量は約18,860トンで、前年度と比較すると約518トン減量することができました。しかし、現計画の目標量17,000トンと比較すると約1,860トン超過しています。この超過分を令和4年10月1日の人口で割り返すと、1人1日当たり約39グラム超過しています。引き続き、「おにぎり1個分のごみ減量」を心がけていただくようお願いします。

年度	ごみ・資源物の排出量 (単位:トン)								人口 (10月1日)	
	家庭系				事業系		高座 搬入計	資源物		合計
	可燃	不燃	粗大	小計	可燃					
令和3年度	19,378.38	323.84	427.32	20,129.54	4,653.56	24,783.10	8,353.16	33,136.26	132,252人	
令和4年度	18,860.13	288.46	335.39	19,483.98	4,885.43	24,369.41	8,034.13	32,403.54	131,629人	
増減比率	-2.67%	-10.93%	-21.51%	-3.21%	4.98%	-1.67%	-3.82%	-2.21%	-0.47%	

市の取り組み

連携協定を結んでいる小田急電鉄株式会社と協力し、今まで燃やすごみとして出されていた剪定枝や草木類の集積所収集を開始したことにより、資源化でき、燃やすごみを大幅に減らすことができました。

また、市民の皆さんが家庭で気軽にごみの減量化に取り組めるよう、生ごみ処理機やコンポストの購入費補助制度に力を入れています。

令和4・5年度に、実証実験として、生ごみの減量化、都市農業の振興、消費～堆肥化～栽培～消費の食循環モデルの形成を目指した「フードサイクルプロジェクト」を実施し、また、1月から感熱紙やアルミ加工紙など、ミックスペーパーとして再生可能な品目を拡大することで、燃やすごみの減量と、資源化の推進に取り組んでいます。



生ごみ処理機などの購入費の一部補助

家庭から出るごみの減量・リサイクルを目的に、①電動式生ごみ処理機②生ごみ堆肥化容器の一部を補助しています（中古品、未使用新品、耐久性に優れていると認められないものは対象外）。

事前に登録が必要です。申請予定の方は対象商品を購入する前に担当へご連絡ください。

※保証書、領収書が必要です。詳しくは担当へお問い合わせください。

補助額

- ①電動式生ごみ処理機
購入価格の4分の3
(100円未満切り捨て、上限5万円。
1世帯1台まで)
- ②生ごみ堆肥化容器
購入価格の10分の9
(100円未満切り捨て、上限2万円。
1世帯2台まで)



生ごみ処理機イメージ